

入浴困難者を湯船に

GH入居者へ設備開放

札幌ライラック

設利用を促し、在宅療養で入浴に困っている高齢者らを、年末年始や夏季の長期休診日などに受け入れていく考えだ。

心臓血管外科

外来を開設

遠軽厚生

豊平区の札幌ライラック病院（志田一彦理事長、下村晴信院長・百六十七床）は、座位式機械浴槽の不備などで、入浴に支障をきたしている地域のグループホーム入居者へ、病院休診日を利用して入浴設備を無償で提供する取り組みを行っている。

区内のグループホームから、強度の麻痺を理由に「清拭やシャワー浴

で普段対応している入居者を湯船に入れてあげたい」と、相談を持ちかけられたのが始まりで二年前に実現。昨年暮れの受け入れで通算三回目となった。

当日は、デイケア内の入浴設備を利用。付き添いスタッフ二人が介助に当たりつつ、病院職員が

リフト操作などをサポート。送迎も病院側で引き受けた。

グループホーム関係者、入居者や家族からの評判も上々なことから、森永万佐事務長は「地域貢献の一環として対象者を広げたい」意向で、今後は地域の開業医やケアマネジャーなどにも施

網走管内遠軽町の遠軽厚生病院（柴田好院長・三百四十六床）は、心臓血管外科外来を開設した。毎月第二、第四金曜日の午前十一時半から午後三時に、旭医大第一外科の出張医が対応する。

20年新規保険指定診療所